＜本郷キャンパス＞学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部・大学院・短期大学英語キャリア科／文京学院大学・短期大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1
☎大・短 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

＜ふじみ野キャンパス＞文京学院大学人間学部・保健医療技術学部・大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保 1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
＜駒込キャンパス＞文京学院大学女子高等学校／文京学院大学女子中学校
〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3
☎ 03-3946-5301

文京学院

平成 25 年(2013 年)
4 月 30 日
第 684 号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

文京学院は、平成 26 年に創立 90 周年を迎えます。

1910人の文京ファミリーが誕生

文京学院入学式盛大に

少し早めの葉桜の柔らかな緑に包まれて、文京学院の入学式が順次執り行われました。来賓はじめ島田燁子理事長／学園長、川邉信雄学長、佐藤芳孝中高校長、益田薫子文京幼稚園長、小栗俊之ふじみ野幼稚園長ほか教職員に見守られ、幼稚園から大学院・生涯学習センターを含む1910名の新しい文京ファミリーが誕生しました。

4月2日「人間学部／人間学研究科、保健医療技術学部／保健医療科学研究科」

文京シビックホールに、人間学部428名、大学院人間学研究科15名、保健医療技術学部218名、大学院保健医療科学研究科23名の新入生が参集しました。

溢れる手話で、司会の竹内秀和・ふじみ野キャンパスディレクターと共に教員紹介をしました。

在学生歓迎の言葉は、関秀隆・学生会本部副会長。それに応えて、東條友里恵さん（大学院人間学研究科）、木村まみさん（同保健医療科学研究科）、上田千紘さん（人間学部）、渡辺志帆さん（保健医療技術学部）、下山慎也さん（文京GCI生）がマイステイトメント（大学生活での夢や目標を達成する宣誓）を述べました。「文京GCI（グローバルキャリア・インスティテュート）」とは、グローバル社会で求められるグローバル英語・グローバルキャリア教育を学ぶために、今年からスタートした新しいプログラムです。

川邉学長

川邉学長告辞に続き、第2回「新・文明の旅」プログラム訪問候補地であるラトビア共和国のペーテリス・ヴァイヴァルス閣下（駐日ラトビア共和国特命全権大使）より祝辞をいただきました。

ペーテリス・ヴァイヴァルス大使

教員代表紹介では、前田明日香さん（人間福祉学科4年）が登壇。手話学生大会で2位を獲得した躍動感溢れる手話でスタートした新しいプログラムです。

式終了後は、齊藤遼・学生会本部会長が司会を担当。在学中に自分のてっぺんを目指す「てっぺんプロジェクト」と、保健医療技術学部が誇る「マッスルプロジェクト」によるプレゼン、「Witch-rino-bit」と「LEOPARDS」による華麗なパフォーマンス、吹奏楽部による高らかな演奏が披露され、新入生を圧倒させました。

4月6日「中学校／高等学校」

本郷キャンパス仁愛ホールで行われた中学校入学式には、113名の新入生が保護者と共に出席しました。司会は水上茂教頭。

佐藤校長

佐藤校長からは、「文武両道」で活躍している先輩たちの姿、「人としての大切な基礎作りの中学生活」が垣間見える式辞が述べられ、新入生一同熱心に聴き入りました。島田学園長も、創立者・島田依史子先生の生き方に触れ、本校が掲げる「誠実」「勤勉」「仁愛」の精神について思いを語りました。後援会「ふじ会」の濱中浩美副会長、同窓会「鏡友会」の高島宏子会長による祝辞の後に、文京学院校友会の森田喜代子会長はじめ来賓が紹介されました。

歓迎の言葉は、第31期生徒会長の呉莉那さん。新入生代表誓いの言葉は、岡本晴花さん。

高石和人・一貫部副校長からは、島田理事長／学園長、島田昌和副理事長／学事顧問、清水秀樹特別顧問はじめ管理職教員、中1担当教員らが紹介されました。

午後の高校入学式には、310名の新入生が仁愛ホールに参列。司会は北野啓子教頭。式辞の中で、佐藤校長からは「海外の大学へ進学した卒業生からの手紙」が披露され、島田学園長からは「医療系に進んだ卒業生」や、平成26年度に開設予定の「看護学科」についての話があり、保護者・教員共々、新入生の3年後に思いを馳せました。

中学・高校で式辞を述べる島田学園長

歓迎の言葉は、第63期生徒会長の鈴木真帆さん。新入生代表誓いの言葉は、牧野菜美香さん。

中高共に開式に当たり、合唱部が国歌・校歌斉唱をリード。式後にも澄みわたる歌声を披露しました。

文京マーチングユースは華麗な演技で新入生を魅了しました。

黒リボンのフォーマルスタイルで起立する高校新入生

4月2日「経営学部／経営学研究科、外国語学部／外国語学研究科」

4月2日午後には、文京シビックセンターに経営学部274名、大学院経営学研究科25名、外国語学部270人、大学院外国語学研究科2名の新入生を迎えました。司会はリーア・ギルナー外国語学部准教授と寺園孝男・本郷キャンパスディレクター付により、英語と日本語で行われました。

アルベルタス・アルギルダス・ダムブラウスカス公使

川邉学長の告辞に続き、第2回「新・文明の旅」プログラム訪問候補地であるリトアニア共和国のアルベルタス・アルギルダス・ダムブラウスカス閣下（駐日リトアニア共和国全権公使）から祝辞をいただきました。

教員代表紹介では、「文京GCI」の顧問として就任された本名信行客員教授（青山学院大学名誉教授）の姿もありました。

在学生歓迎の言葉は、内田晶子・学生自治会会長。それに応えて、福重光太郎さん（大学院経営学研究科）、鹿川和夫さん（同外国語学研究科）、青木一泰さん（経営学部）、吉岡万莉奈さん（外国語学部）、馬場桃子さん（文京GCI生）がマイステイトメントを発表しました。

式終了後は、司会を内田学生自治会会長にバトンタッチ。歓迎パフォーマンスとして、西村ゼミ「全国大学生マーケティングコンテスト」入賞チームの英語によるプレゼン、「Witch-rino-bit」によるダンスと「Sparkys」によるチア・リーディング、吹奏楽部による演奏が披露されました。

また、ゴスペル部は、午前・午後ともに式歌・校歌を歌い上げ、会場に厳粛なムードを醸し出しました。

4月6日「ふじみ野幼稚園」

6日、ふじみ野幼稚園のホールでは、年少さん年中さん合わせて109名の新しいお友だちを迎えました。

岸園長補佐

小栗園長

（写真提供＝スタジオ・トナミ）

小栗俊之園長参加による教員陣の寸劇は、毎年大人気！ 新入園児と保護者の笑顔が、ホールいっぱいに広がりました。

今年度から、奥村幸子副園長に代わり、岸由美子主任が園長補佐としてさらに園児との触れ合いを深めていきます。

4月10日「文京幼稚園」

10日、文京幼稚園の園庭に、年少・年中・年長児合わせて70名の新しいお友だちが参集しました。島田燁子理事長／学園長が見守る中、保護者と共に屋外での入園式。教員陣の人形劇や年長児の歓迎の歌に大喜びでした。式終了後には、年長児手づくりのメダルが新入園児に贈られました。

益田園長

今年度から、高木克園長に代わり、益田薫子副園長が園長に就任。文京幼稚園ブランドをさらに高めていきます。

4月9日「文京生涯カレッジ」

1年間の継続学習で、30時間60コマを学ぶ同講座は、その充実した内容が毎年大評判で、今期も53名が入学。島田燁子生涯学習センター所長から激励の言葉を受け、受講生一同、学びの意欲をさらに高めました。

Green Spirits

地域福祉の一大拠点へ

梶原 隆之 BICS センター長／人間学部准教授

私は、平成17年4月に本学に着任いたしました。そして、その年の5月に地域連携センターBICSが開所しました。私もBICSも9年目です。

この9年間、センターは大きく成長いたしました。当初はボランティアセンター構想でしたが、試行錯誤の末、地域に貢献しながら学ぶサービスラーニングという考え方を基本にしようということになりました。現在では、外部からのボランティアを受けるとともに、こちらから発信する高齢者、身体・発達・精神障害者、小学生向けなど11種類のプログラムを揃えています。

私は、CHESSというプログラムを担当し、施設などで学生と音楽療法的活動を行っています。子どもから高齢者まで、対象者の年齢に合わせて選曲します。先日は老人ホームで演奏しました。話をするのが難しい、かなり重度の方が参加され、家族に付き添われながら、なんと笑顔で全曲歌ってくださいました。施設の方は利用者の方々の初めて見る素敵な表情と、音楽に主体的にかかわる姿を見られ喜んでおられました。毎回ドラマがあり、学生も感動しながら自信をつけています。

かつては、小学生のプログラムを担当しており、町で中高生に成長した子どもにばったり会って、うれしい気持ちになることがあります。ずいぶん前に、学校に適応できない小一の子どもが保護者とともにやってきました。保護者の方は心配されていましたが、グループワークの力はすごいもので、プログラムにすっかりはまって、数年後に元気に卒業していきました。

BICSには地域住民である地域委員がいらっしゃいます。かつて「BICSを大学病院のようにしてほしい」と言われたことがあります。私は、プログラムが充実した今こそ、BICSが地域福祉の一大拠点として力を発揮する時だと思います。教授陣は最新の研究をもとにプログラムを展開し、さらに研究に結びつける、学生は活動をしながら学ぶ、地域へは専門的な活動で貢献する、このことを実現したいと思います。

支えてくださる地域委員、学生も教員も、みなボランティアです。本当にありがとうございます。引き続き、ご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

生徒と教員 切磋琢磨し「チャレンジ」

特集

「高校進路状況座談会」

本校に入学した生徒たちは全員「文京スタンダード」と呼ばれるプログラムに取り組みます。例えば、「特色あるクラス指導」として「理数」「英語」「文理」の4クラス制で、1年次から進路選択に対する意識を高めます。プリキュラムを精選し、一人ひとりのニーズにあった「豊かな教育を実践」、さらに、グローバル社会における女性の自立とキャリア形成を目的とした「国際教育」、より高い進路目標を実現する「進路指導」、多彩な実験・研究を通して理数力を高める「科学塾」など、本校独自のプログラムを経て、それに向かって精力的に学んでいます。

24年度は、それらの成果が「進学実績」として顕著に表れた年でした。今回は、佐藤芳孝校長、佐藤泰正進路指導部長、この春本校を卒業後、海外留学を控えた寒川遥香さん、篠原麻穂さんが「文京学院の進路教育」について語り合いました。

将来の手応えを感じた24年度

―進路において、24年度はどのような年でしたか？

校長　本校は各大学からの学校指定枠を沢山いただいていますが、昨年度多くの生徒たちが、一般受験にチャレンジしました。それが結果となって表れたと考えています。例えば、東京都の女子校で本校が唯一文科省から採択されたSSH（スーパーサイエンスハイスクール）により、理数系指導が充実し、その結果、筑波大学の工学システム、東京医科歯科大学の保健衛生、首都大学東京・東京慈恵会医科大学・東京女子医科大学の看護など医療系の他、東京農業大学の国際農業開発、国際バイオビジネスなど、英語と理数知識が必要な学部も開拓されました。勿論、文京学院大学の作業療法・理学療法・臨床検査各学科にも進学しました。

グローバルな人材を育てるための「国際教育の一環」としての「国際塾」を通して、海外の4年制大学への進学者も増えました。

ただ、「良い結果」というよりは「将来に向けての手応えを感じた年」という表現が適切です。来年、再来年にますます期待できるという感触があります。

佐藤芳孝校長

勉強もスポーツも変わりなく表彰

―具体的にどのような施策をとりましたか？

部長　受験生のための環境整備は良かったと思います。例えば高3がじっくりと受験勉強に集中できるよう「進学棟」の設置は効果があります。学年全体でひとつのことに取り組んだことも、全体のムードを高めました。例えばこの春の卒業生の代から、朝の時間を使って学年全体で英語のショートテストを行い、その結果を毎回掲示しました。そういった方法は、これまで本校ではタブー視されていたきらいがありましたが、実際に行ってみると、高得点を取った生徒はさらに頑張り、取れなかった生徒も頑張るという効果が現れました。「自分にもできる！」という空気が、学年全体に広まったように思います。

校長　表彰もよく行いました。当初、全国レベルの模試で高得点を取った生徒を校長室に呼んで、ひっそりと表彰していたのですが（笑）、生徒はとてもよろこんでくれました。考えてみると、全国大会のスポーツで活躍したのと同じことなのですから、皆の前で表彰するのは当たり前のこと。先日は初めてジャシーホールで表彰をおこないました。学校での評定、外部の評定が一致して本校の質が保証されるのですから、「学力の全国大会」での活躍をきちんと評価できるようになったことは、とても良いことだと感じています。

部長　年間3回、大手の模試があり、本校は高3全員が受験します。いわゆる全国大会での結果が上位であれば表彰されるということが、生徒の励みにもなっていると思います。

校長　スポーツで活躍して発奮、「自分たちが先輩を追い越す！」という思いのエネルギーが生まれていますが、これは生徒に限った普段の学ぶ姿や実績を見て発奮、「自分たちが先輩を追い越す！」という思いのエネルギーが生まれていますが、これは生徒に限った一点」にたとえ失敗しても、「人間としての価値」が変わるわけではない。努力して合格した学生は、その生徒にとってはベスト。もし、それで悔しいなら、そこでまた頑張ればいい。

スポーツに例えると、レギュラーになる生徒と応援・サポートに回る生徒がいる。どちらも素晴らしい！　本校に来て、私はそのサポート側の生徒の言動を見て、心からそう思います。

佐藤泰正 進路指導部長

2013年（2012年度卒業生）　大学入試合格状況

大学名	学部	大学名	学部
浜 波	理工	首都大学東京	健康福祉
東京医科歯科	医	横浜市立	国際総合
慶応義塾	環境情報	上 智	経済
慶応義塾	法	上 智	外国語
慶応義塾	文	上 智	文
慶応義塾	文	上 智	文
早稲田	スポーツ	青山学院	理工
明 治	法	中 央	経済
明 治	商	中 央	文
明 治	経営	中 央	法
明 治	文	法 政	法
明 治	文	法 政	経済
立 教	教	法 政	経営
立 教	教	法 政	文
立 教	教	法 政	国際文化
立 教	コミュニティ福祉	法 政	現代福祉
立 教	教	学習院	総合政策
成 蹊	法	國学院	経済
成 蹊	経済	國学院	人間開発
成 蹊	文	武蔵	人文
成 蹊	文	武蔵	社会
成 蹊	法	武蔵	社会
成 城	文芸	日本女子	文
成 城	社会イノベーション	日本女子	文
成 城	社会イノベーション	日本女子	人間社会
明治学院	法	日本女子	人間社会
明治学院	法	日本女子	人間社会
明治学院	法	日本女子	人間社会
明治学院	経済	東京女子	現代教養
明治学院	経済	獨協	外国語
明治学院	国際	獨協	外国語
明治学院	文	獨協	外国語
明治学院	心理	獨協	国際教養
明治学院	社会福祉	獨協	法
明治学院	社会福祉	獨協	経済

大学名	学部	大学名	学部
東京慈恵会医科	医	聖心女子	文
順天堂	医療看護	聖心女子	文
順天堂	スポーツ健康	聖心女子	文
北 里	海洋生命	聖心女子	文
埼玉医科	保健医療	聖心女子	文
東京女子医科	看護	聖心女子	文
東 邦	理	立命館APU	国際経営
東 邦	看護	立命館APU	国際経営
東 邦	看護	東京農業	国際食料情報
杏 林	看護	東京農業	国際食料情報
日 本	理工	東京農業	国際食料情報
日 本	生産工	東京農業	国際食料情報
日 本	芸術		
日 本	商		
日 本	商		
日 本	文理		
日 本	法		
東 洋	食環境		
東 洋	工		
東 洋	理工		
東 洋	理工		
東 洋	文		
東 洋	文		
東 洋	文		
東 洋	文		
東 洋	文		
東 洋	法		
東 洋	社会		
東 洋	社会		
東 洋	国際地域		
東 洋	ライフデザイン		
東 洋	ライフデザイン		
東 洋	総合情報		

他有名大学

駒沢・専修・東海・帝京・玉川をはじめとする共学大学　および
昭和女子・白百合女子・清泉女子・東洋英和女学院などの女子大へも合格者を出すことができました。
学部別明細の記載は省略しました。

海外大学

国立ハンガー大学（英）
国立ハンガー大学（英）
国立ダブリン大学（アイルランド）
国立ダブリン大学（アイルランド）
オッターバイン大学（米）
クリーリバーコミュニティカレッジ（米）
義守大学（台湾）
義守大学（台湾）

併設文学

2013年度の併設文学各校者数は合計53名でした。

2013年度卒業生の進学（入試合格）に向けて、確かな手ごたえを感じることのできる今年度入試結果でした。
来年度の実績にもぜひご期待ください。

（一部抜粋）

教職員は一流のコーチに

―看護系志望の生徒が増えているようです。

校長　先日、26年度に文京学院大学に新設予定の看護学科の準備室の方々が本校の見学にいらっしゃいました。お話によると「勉強する姿勢を持ち続けていない、人の命を預かる看護師という仕事はできない」ということでした。新設にあたり、優秀な先生方が文京学院にいらしてくださいましたから、学生たちは専門知識だけではなく、「勉強し続ける」ことの大切さや意味、そして「心」について深く学べるのではないでしょうか？

留学で初めて知る日本の素晴らしさ

―海外留学する生徒も増えました。

部長　英国、アイルランド、台湾、米国、中国の歴史ある大学へ9名が進学することになりました。こちらの寒川さんと篠原さんは、アイルランドのDublin University, Trinity Collegeで学びます。

校長　ふたりは「現地の大学を卒業する」という強い心で留学を決めました。その動機は？

寒川　英　語で自分の考えが相手に伝わることに快感を覚え（笑）、外国の方々と話すことが大好きになりました。外国人観光客を見るとうれしくて仕方がありません（笑）。将来は、英語でコミュニケーションできる仕事をしたいと思うようになりました。

「日本の大学でも今は高い英語教育を受けられるのに、なぜ留学？」と先生方からも聞かれましたが、私は日常生活自体を英語漬けにして、異国文化を沢山吸収し、自分の視野を広げたいと思いました。ヨーロッパという土地柄、特に英国やアイルランドには他国の方々が沢山いらっしゃるので、この大学を選びました。

部長　初めて英語で外国人と触れ合ったのは？

寒川　中3の春に本校の語学プログラムでニュージーランドに行った時が初めてです。ホストシスターだけではなく、現地で沢山の友だちができて英語で話が通じた時は本当にうれしかったです。

篠原　私も本校のプログラムで米国へ行きましたが、中学時代は、正直言って外国人恐怖症でした（笑）。本校にはネイティブの先生が多いので、覚えた単語で話が通じて、英語に興味を覚えました。語彙が増えて英語力が伸びていくのが判り、英語がとても好きになりました。さらに英語力を高めたいと留学を決めました。

私自身、日本のことをよく知らない状態ですが、海外から見る日本にも興味があります。今は生意気ばかり言っていますが、日本を離れることで親のありがたさが解ることでしょうし、精神的に自立することもできると思います。

部長　ふたりとも「国際塾」で学びましたね。「国際塾」はどうでしたか？

寒川　はい。ネイティブの先生と日常的に使える英語で話すので、とても楽しかったです！　2時間ぶっ続けの授業でしたが、少しも苦にはならずに、心から「英語は楽しい！」と思えるようになりました。

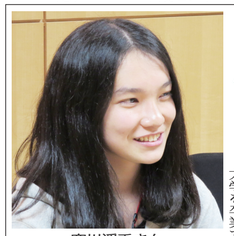
篠原　「国際塾」には帰国子女が多くいて、自ら発言して自ら授業をしているという印象があり、その中でとてもはっきり決まっているわけではありませんので、現地で見つけたいと考えています。日本の良いところを沢山見つけたいしゃいます。「はいいってらっしゃい！」という感じでした（笑）。

篠原　「行きたい所に行かせてあげたい」と、金銭のかかる留学にも関わらず、家計簿を調整して応援してくれました。

校長　ありがたい話です。何と言っても家族の理解が必要ですね。その分、しっかりと勉強しないといけませんね。

寒川・篠原　はい！

篠原　母は「うらやましい！私には勇気がなかった」と言っていましたので、母のように、新たなグローバル化時代に求められる教養科目と、さまざまな分野のプロフェッショナルを招いての実践的なプログラムから構成されています。加えて、海外への留学と研修を通して異文化間理解を体験するようになります。


寒川遥香さん

個々の特性を理解してサポート

―教員として大切なことは何でしょう？

校長　SSHの関連で活躍している生徒の細川華也は、とにかく驚くほど熱心で、だけでも大変な上智大学の全国高校生英語弁論大会で堂々とスピーチした生徒、本校には素晴らしい素質を持った生徒が沢山いますので、一人ひとりの特性をよく理解し、サポートしていく必要があります。私は企業勤務をしてきた人間ですから、外の目で本校を見ても、本校の教員はどこの学校にも劣らない、素晴らしい力を持っています。

篠原麻穂さん

「人間の価値」は入試では決まらない

―教員側にも変化がありましたか？

校長　生徒は、先輩たちの普段の学ぶ姿や実績を見て発奮、「自分たちが先輩を追い越す！」という思いのエネルギーが生まれていますが、これは生徒に限った一点」にたとえ失敗しても、「人間としての価値」が変わるわけではない。努力して合格した学生は、その生徒にとってはベスト。もし、それで悔しいなら、そこでまた頑張ればいい。

スポーツに例えると、レギュラーになる生徒と応援・サポートに回る生徒がいる。どちらも素晴らしい！　本校に来て、私はそのサポート側の生徒の言動を見て、心からそう思います。

部長　苦労はありませんでしたか？

寒川　部活（硬式テニス部）に入っていたため、「国際塾」を優先しても届かない、「チャレンジする」ことと、結果のみをとらえていると安全志向に走りますから、「入れる大学」ではなく、「入学する大学」に目標を置き、それに向けて生徒に伴走できるようにしなければいけないと思います。

寒川　祖父は40年前にバティシエの勉強でフランスへ行きました。今でも暇さえあれば語学の勉強をしていますので、私も負けられません。

校長　次号で、英国の名門大学・セントアンドリュース大学へ昨年留学した藤原恵理さんの手紙を紹介しますのでどうぞお楽しみに。日本の大学に進むにしても、海外留学するにしても、文京学院で学んだ一人ひとりの未来が明るいものになるよう、私たち教員は一丸となって皆さんのサポートをしてまいります。

ご退職の先生方

永年、文京学院の発展にご尽力され、この4月に退職された先生方です。ご紹介は抜粋となります。

野口 昇
外国語学部特任教授

本年3月末をもって文京学院大学を退職致しました。十余年の間、実に多くの方々にお世話になりました。島田理事長をはじめ皆様方に心から御礼申し上げます。

振り返りますと、故平山郁夫先生をお招きしての講演会、島田理事長のお伴を協議、学園祭でのゼミ研究発表、10年続いてきた国際連携プログラムなど、様々な思い出がこみ上げてきます。

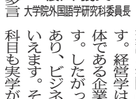
文京学院大学のさらなる発展をお祈りしています。

工藤 秀機
大学副学長

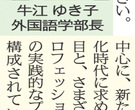
今年度からふじみ野担当の副学長を拝命いたしました。ふじみ野にある人間学部と保健医療技術学部は医療福祉系の学部として共通部分が多いのですが、平成26年度からは、看護学科がふじみ野に新設される予定で、更にその特色が強調されるでしょう。医療福祉分野は地域貢献にも係る分野です。今後、両学部の連携のもと地域医療の拠点大学を目指せたら素晴らしいことだと思います。

新しい先生方

この4月から就任された新しい先生方です。ご紹介は抜粋となります。


櫻山 義夫
大学院外国語学研究科委員長

外国語学研究科は、多言語・多文化共生を目指し、幅広い視野に立った研究のできる場です。「国際協力」「国際ビジネスコミュニケーション」「英米文化理解」「英語教育・英語学」の4カテゴリーの一つに身を置き、新しい視点に立った研究を目指してください。


牛江 ゆき子
外国語学部長

外国語学部の学生は、授業はもちろんのこと、留学や インターンシップ、チャット・ラウンジ、外国語の自習・資格取得の勉強、部活動やサークル、自治会活動等にも積極的に取り組み、輝いて見えます。教員、職員は、そのような学生を日々、全力で指導、サポートしています。学生生活が一層実り豊かなものとなるよう、また、教員、職員が力を存分に発揮できるよう、尽力したいと思います。

櫻井 隆
経営学部長

経営学部では、経営学の理論と実際の両面を学びます。経営学はビジネスの主体である企業に着目をします。したがって、実務的であり、ビジネス色が強いといえます。そのために設置科目も実学が多いのです。しかし理論なきビジネスは最後には破綻をします。そのため理論的な科目も多く設置されています。この4年間でビジネスの両面を大いに学んで、充実した学生生活を送ってください。

西村 信勝
GSI機構長、GCIセンター長

今期から始まったGCIは、グローバル英語科目を中心に、新たなグローバル化時代に求められる教養科目と、さまざまな分野のプロフェッショナルを招いての実践的なプログラムから構成されています。加えて、海外への留学と研修を通して異文化間理解を体験することも奨めています。GSI機構長として、GCIセンターと国際交流センター間の情報共有を促進させ、より有益なプログラムを学生に提供していきたいと思っています。

本名 信行
GCIセンター顧問、客員教授

GCI科目「新たなグローバル化の潮流」の第1週の授業を終えたところです。学生は英語がむずかしいと言いながらも、やる気満々。これが大切です。GCIはグローバル人材育成に最適の教育課程です。やる気で努力すれば、必ずできるようになります。やらなければ絶対にできるようになりません。

こんなことを学生に言いながら、4年後の成長を楽しみにしています。

益田 薫子
文京幼稚園園長

この度、文京幼稚園長に就任いたしました益田薫子です。よろしくお願い申し上げます。

59年前に、依史子先生が文京学園の中に熱い思いで開園された文京幼稚園。そこから「大切なバトン」は歴代の名の園長が思いを引き継ぎ、受け渡されてきたのですが、この春依史子先生の孫である私がしっかりと手に受け取りました。

その重みを感じながら、今後も末永く皆様に愛される文京幼稚園であり続けるよう努力していく所存です。

小川 津弥子
高等学校・中学校教諭

37年間、生徒の皆さん、先生方、学園関係の皆さんに多方面にわたって助けていただきました。心より御礼申上げます。

生徒の皆さんには、自ら学ぶ習慣と自分で未来を切り拓いていくたくましさを、在学中に身につけてほしいと願っています。学校という場は、「学ぼうとする意欲」があれば、あらゆるチャンスと支援が得られる所です。頑張りましょう！　皆さんの健闘を祈ります。

することも奨めています。

卒業生の皆さん、先生方、つつあります。私もあと少し非常勤講師としてお手伝いをすることになりました。

山﨑 幸子
准教授

奈良 環
准教授

中島 修
准教授

茂井 万里絵
准教授

松爲 信雄
教授

人間学部

庄司 真奈美
新学科設置準備委員会委員

奥原 秀盛
新学科設置準備委員会委員

横田 素美
新学科設置準備委員会設置委員

坂元 暁子
助手

畑 倫子
助教

保健医療技術学部

穐山 幸奈
先生

渡部 直子
助手

江戸 優裕
助手

正保 哲
助教

木村 明佐子
助教

中学・高校

飯塚 佑佳
先生

木村 樹里
先生

小出 美緒
先生

山本 純子
先生

大森 達也
先生

ふじみ野幼稚園

2012年度募金状況報告

同窓生との絆づくりのために、「創立90周年記念事業募金支援のお願い」へ温かいご支援を賜りました皆様、心より感謝申し上げます。募金は2015年3月31日まで受付ておりますが、今回、2013年3月31日までにいただきましたご寄付について、ご報告させていただきます。

末永くご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■募金状況

《2012年度》2013年3月31日現在

【募金件数】個人・576件、団体・1件　合計・577件

【募金総額】3160万1228円

本校SSH『つくばサイエンスエッジ』に出場

『サメとヒトとの比較解剖学』チームが第1位！

都内女子校で唯一、文科省から「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」と「コアSSH」の同時採択を受けた本校の理数教育。生徒たちは、内外のスペシャリストの指導を受けながら、日々、自身の課題に取り組んでいます。

3月23日、『つくばサイエンスエッジ』（サイエンスコンテスト／主催＝つくば Science Edge 2013 実行委員会、後援＝独立行政法人 科学技術振興機構）がつくば国際会議場で開催されました。本校は、事前に行われた「アイデアコンテスト」でベスト8に残り、当日の本選に臨みました。

同コンテストは、授業の課題研究やクラブ活動で取り組んだ研究をもとにした、科学に関する「アイデア」を発表する場で、江崎玲於奈博士をはじめとする科学者、研究者たちと一緒に、「科学の最先端」に触れることができます。

本選は、「オーラルセッション」「日本語ポスターセッション」「英語ポスターセッション」の3部門で行われ、本校は「日本語ポスターセッション」に5チームが参加。『色が変わるゴボウ～クロロゲン酸の性質を探る～』の発表は、本大会が初めてとなりました。

『振ると色が変わる様々な水』チームは、iPadを使用して、水溶液の色の変化の様子を動画で説明しました。『Egg drop』チームは、自作の装置を使って、デモンストレーションも交えながらアピール。『ぬれたタオルはなぜ乾くのか?』チームは、大学教授の前でも物怖じすることなく説明し、お褒めの言葉をいただきました。『サメとヒトとの比較解剖学』チームの発表には、常に人だかりができました。

さらに「英語ポスターセッション」では、『小笠原の海の謎を解き明かせ!』チームが参加。英語での研究発表は本大会が初めてで62チーム中、第1位を獲得しました。これまで様々な大会で発表を行ってきましたが、同チームはこの大会で初めて賞に選出されました。入賞したチームを称えつつ、他のチームも、「次は自分たちの番だ!」と決意を新たにしました。

『色が変わるゴボウ～クロロゲン酸の性質を探る～』チーム初の発表

『小笠原の海の謎を解き明かせ！』チームの英語によるポスターセッション

第1位を獲得した『サメとヒトとの比較解剖学』チーム

倉嶋ゼミ生の入選作

六本木の街を飾る

学園紙2月号で予告した「六本木デザイナーズフラッグコンテスト2013」（主催＝六本木商店街振興組合、後援＝港区）の入賞作品が、現在、フラッグとなって六本木商店街にはためいています。

テーマは「花」。

「文京学院大学」の名前が明記された経営学部・倉嶋ゼミ生たちの入選作品も、本学PRに一役買っています。入選者は、山崎真（4-16）、奥村友貴（4-18）、松田華奈（6-18）、渡辺翔互・奥村友貴・桑野由貴子（倉嶋ゼミ卒TA）共同作（7-33）。（敬称略）＊（　）の数字は掲載場所。

清々しいこの季節、文京学院生の作品を探しながら六本木散策を楽しめば、心身もリフレッシュ間違いなし。いざ六本木へ！

街灯ではためく松田さんの作品

「文京学院大学」の名前が光る奥村さんのフラッグ紹介

環境教育研究センターの学生たち

『フィリピン・スタディツアー』で学ぶ

現地の子どもたちが書いた「将来の夢」を掲げて　左から小林代表、スタッフの小川愛子さん・外山麻貴さん、本学の田口さん・細谷さん・鳥羽さん・石川さん・高木さん、大東文化大の長島さん、法政大の川端さん、本学の田中さん

フィリピンのパンガシナン・マーシン村の子どもたちの就学支援を行っているクムスタカ・リンク（小林久美代表）主催の「フィリピン・スタディツアー」（2月9日～18日）に、本学環境教育研究センターに所属する学生8人が参加しました。メンバーは、コミュニケーション社会学科4年の漆戸香澄さん、細谷貴史さん、田中光さん、同3年の高木紀幸さん、鳥羽純礼さん、田口力さん、石川茉希さん、石沢夏希さん。

4月27日には、上福岡図書館で開かれた報告会で、8人は法政大学2年の川端翔太郎さん、大東文化大学2年の長島将太郎さんと共に、現地での活動や思いについてプレゼンしました。

マーシン村でホームステイをしながら、学生たちは小学校で授業を実施。日本語や、折り紙の紙飛行機の作り方などを教えました。さらに、タガログ語で、ごみのリサイクルをテーマにしたヒーローショー「モッタイナイレンジャー」に挑戦。全身タイツの出で立ちは死ぬほど暑かったようですが、子どもたちは大喜びでした。

山岳地帯のギブガンでは、コーヒー農園を訪問し、収穫から焙煎までを体験。かつて生活のために行ったマリファナ栽培を、コーヒー栽培に転換するプロジェクトについても学習しました。歓迎のお祭りでは、豚の屠殺も目撃。それをもてなし料理として出されたことで、「命をいただく」という思いを新たにしました。

マーシン村は無医村の貧しい村で、障害を持った5人の子どもたちがいますが、今回の訪問でその一人が亡くなっていたことを知り、学生たちは大きなショックを受けました。どんなに貧しくても、明るく元気に精一杯生きている子どもたちの将来の夢は「医師」「看護師」「弁護士」など、「人の役に立ちたい」と願うものばかり。その姿に、学生たちは「豊かさとは何か?」と自問自答を繰り返しています。

ツアー参加2回目の石川さんと鳥羽さんは、「今回は心の余裕をもって参加できました。前回とは違う視点で物事を見たり考えたり、周りがよく見えるようになりました」と成長を実感。

これら貴重な体験のチャンスを与えてくださった小林代表は、「田んぼの活動（NORA）や、東北でのボランティアツアーなど、どの活動にも学生たちがいてくれる。私たちにとって、なくてはならない存在です」と信頼。学生たちもまた、小林代表はじめ活動を共にする大人たちから、机上では学べない大切なことを学びながら、日々成長しています。

投稿

TAFで巡り会った友との出会いを誇りに

経営学部経営学科 コンテンツ・マーケティング専攻3年
TAF学生実行委員長
露木 理菜

露木さん

1年間を通して学ぶ「長期フィールドワーク実践」でフィールドワーク先として「東京国際アニメフェア（TAF）」を選択しました。これは学生の作品を商品化し、世に送り出すことをコンセプトに、毎年3月末に行われるTAFという世界最大級のアニメの祭典への出展を目標にしています。この講義との出会いは、それまでただ何となく、義務的にも近い感覚で送っていた大学生活を、一変させるものとなりました。

興味本位でガイダンスに顔を出してみた事をキッカケに、上手く言葉で言い表す事は出来ませんが、私の中で何かビビッと来るものがあり参加を決意しました。やるからには徹底的に!そう思い、委員長の役職にも就かせていただきました。

最初のうちは来場者の前に立ち、話をする事もぎこちなく、途中仕事の要領が掴めず、メンバーと言い争うような場面もありました。しかし、日数を重ねきちんと意見交換をしてみると、活動に対しての意識が高く、自分の意見をしっかり持っているからこそ真正面からぶつかってきてくれるのだな、と分かるようになりました。それから当日まで、日を追うごとにメンバー間も打ち解けあい、励まし合う姿を多く目にするようになりました。春休みは毎日学校に通いつめ、気づくと自然と皆で同じパソコン室に集まり、顔色の悪さや隈の濃さを心配するような仲に。毎日一緒にいたためか、個人の得意なことは班や全体のために上手く活用し、苦手なことは教わるなど、日々学びながらお互いを刺激し合い、成長していく過程が見えていたように感じます。一人ひとりが主役である活動なのだと実感した瞬間でした。そうして迎えた4日間はあっという間でした。

川村順一シニアプロデューサー（前列左）を囲むTAF学生メンバー

企業様へのプレゼンテーションでは、何回も見ていたはずのものが全く違う様に見えるほど素晴らしく、回を重ねる度にアドリブを交えたり、声色を変えたりと各班に個性が表れ、最後の一分一秒まで、成長は止まりませんでした。そして最後のプレゼン後、達成感から泣き出してしまう班もあり、私が言うのも変な話ですが、本当に感動的でした。一般のお客様へ向けてのチャリティーグッズ販売も、人と人との繋がりを切に感じることができ、とても温かい気持ちになりました。TAFに参加して得たものは、プレゼンテーション能力や、リーダースキルなど技術や能力面だけではありません。私が一番の収穫だと感じているのは、TAFを通して築くことができた人脈です。

数多くの企業様や頼もしい先生方、先輩方と知り合い、今までになかった視野を広げていただくことができました。また、褒め合うだけではなく、ときには厳しい指摘もし合い、心から尊敬できるメンバーに出会えた事に、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。この度委員長を任せていただけたことは、まだ約半分を残している大学生活の中でも恐らく一番の自慢であり、誇りになるであろうと思います。

【訂正とお詫び】

3月31日号（683号）1面「高校バレー部 都新人戦で優勝！」記事中の田原愛理さんは「田原愛里さん」です。訂正してお詫びします。